



小集団学習のすすめ

協同学習の
効果を狙う

授業を進めていると、その内容によっては、子どもたちにもっと積極的になってほしいとか、自分から進んで調べてほしいとか考える。また、学級経営で“当番活動”とは別に、自治的な活動として、自らの学級生活を向上させる活動を班単位で企画運営させたりする「班活動」を学級運営の軸にすることも多いと思う。各教科の学習にその班活動を利用することもあるだろう。

昨日の研修会の講演で、話し合いがなかなかうまくいかないことについて話があり、自分のことかと思った(苦笑)。

上記は「ジグソー学習法」である。小集団による授業を含めての諸活動を効果的に進めるための一つの方法として紹介しておきたい。個人的に研究をし、実践してきたものだ。

ジグソー学習法の特長

緊張感をもって責任ある活動に結びつけやすい

元の班で説明するとき、班の中には自分一人しかその課題の担当がおらず、責任を持って対応せざるを得ない。他の班員は、自分の課題以外には、情報源がその説明者しかいない。なんとかして聞かなければ解決できない。結果的に「聞こう」とする姿勢が育つ。

自分が必要とされている感覚を体験させやすい

“相互依存”が大前提であるから、頼られる経験をする。達成感とともに自己肯定感が育つことを期待できる。“協同”あるいは“協働”の体験である。

成員(他者)を承認する体験を得やすい

自分たちの課題を解決するには、他者の情報を必要とすることを意識的に行うことになる。大げさだが、他者によって自分が成り立つ体験の一つとなることが期待できる。

学習に関する習熟の差に対応する方法となる

- ▶「一斉」学習：習熟の高い者が中心となって進みやすい。また、習熟の低い者に合わせると今度は全体の学習進行が滞ることもある。
- ▶「個別」学習：習熟の差を考慮して進められるものの、学校の現状では、数的不利は否めないし、集団の効果を狙った“交流”がうまくいかない。
- ▶「小集団」学習：「一斉」「個別」双方の長短を併せ持ち、それらを補完することが可能となる。

ということで…もし気になったら声をかけてください。

